

港区立麻布学校
平成 29 年度 授業改善推進プラン

教育目標

- 元 気 な 子
- や さ し い 子
- 考 え る 子

学校経営方針（学力向上にかかわる要点）

- ・総合的な学習の時間・生活科を核とした校内研究、学力調査結果を基にした授業改善を行う。
- ・授業のねらいを明確にもって学習状況を正確に見取り、指導と評価と支援が一体化した実践をする。
- ・各学年の発達段階に応じた内容・量の課題を与え、子供が自主的・継続的に過程において学習に取り組めるようにする。

昨年度の成果と課題

成果

- ・算数科を軸とした校内研究による個に応じた指導の充実。
- ・地域の人材との交流や施設を活用した体験活動による興味関心の喚起。

課題

- ・自ら課題を見つけ、探究する「学ぶ姿勢」の定着。
- ・話し合い活動、グループ学習による「表現力」の育成。

本校の授業改善に向けた視点

教育課程編成上の工夫	指導方法・指導体制の工夫	評価活動の工夫	校内における研究や研修の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ○ 週 時 程 の 工 夫 ・ 1 校 時 開 始 前 の 「 朝 の 時 間 」 の 活 用 ・ 3 校 時 開 始 前 の 時 間 の 活 用 ○ 授 業 時 数 の 確 保 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教 科 ・ 領 域 ・ 単 元 に 応 じ て 、 指 導 方 法 、 指 導 体 制 、 指 導 形 態 を 工 夫 す る 。 ○ 体 験 的 活 動 や 問 題 解 決 的 学 習 の 重 視 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 評 価 の 二 期 制 を 実 施 す る 。 ▲ 評 価 の 日 常 化 を 図 る 。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生 活 科 ・ 総 合 的 な 学 習 の 時 間 に よ る 、 「 わ か る ・ で き る ・ 楽 し む 授 業 つ く り 」 の 実 施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地 域 の 特 色 を 生 か し た 施 設 の 活 用 ○ 地 域 の 特 色 を 生 か し た 教 材 の 活 用 ○ 多 様 な 地 域 の 人 材 の 活 用
具 体 的 な 取 組				
<ul style="list-style-type: none"> ○ 週 3 回 の 「 ぐ ん ぐ ん 時 間 」 の 設 定 ○ 週 2 回 の 「 の び の び 時 間 」 の 設 定 ▲ 週 2 回 の 「 読 書 時 間 」 の 設 定 ○ 月 2 回 の 土 曜 授 業 日 の 設 定 （ 第 1 ・ 第 3 土 曜 日 ） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3 年 生 以 上 の 算 数 に お い て 、 少 人 数 指 導 を 実 施 す る 。 ○ 理 科 の 学 習 に お い て 、 サ イ エ ン ス ア ド バ イ ザ ー を 取 り 入 れ る 。 ○ 生 活 科 の 時 間 ・ 総 合 的 な 学 習 の 時 間 に お い て 学 校 内 外 の 施 設 や 外 部 講 師 を 積 極 的 に 活 用 す る 。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 二 期 制 に よ る ロ ン グ ス パ ン の 評 価 を 行 う 。 ○ 学 期 末 の 小 評 価 に よ る シ ョ ー ト ス パ ン の 評 価 を 行 う 。 ▲ 日 常 的 に 指 導 と 一 体 化 し た 評 価 を 行 う 。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個 別 の 指 導 ・ 支 援 の 充 実 を 図 る 。 ▲ 話 し 合 い 活 動 ・ 教 室 掲 示 を 工 夫 す る 。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総 合 的 な 学 習 の 時 間 で 、 地 域 の 施 設 を 訪 問 す る 。 ○ 地 域 の 諸 団 体 と の 交 流 を 通 し 、 郷 土 愛 を 育 む 。 ○ 総 合 的 な 学 習 の 時 間 に お い て 、 地 域 の 人 材 を 招 き 、 伝 統 文 化 に つ い て 学 ぶ 。

港区立麻布小学校 各教科の授業改善推進プラン

国語	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> 自分の経験や想像したこと文章に書くことや、自分の考えを明確に表現する文章を書くよう指導すること。 漢字を適切に使用した文章を書くことを定着させること。
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを書くことについての抵抗感をなくすため、スピーチや日記など自分の思いを言葉にしたり文章化したりする活動を多く取り入れる。 他教科等日常の中でも漢字を意識させる指導を行う。
社会	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> 等高線や地図記号など地図の見方についての理解を深め、自分たちの暮らす地域とのつながりを理解すること。 資料や写真を適時に扱い、読み取ったことを基にして推測したり考察したりする力を定着させること。
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> 地図に記載されている情報を読み取り、活用する機会を設定する。 授業以外の時間も活用し、地図帳や資料集から想像力を働かせて人々の暮らしをイメージできるような機会を設ける。
算数	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> 問題文から場面を想像し、適切に立式する力をつけさせること。 日常の中で数量関係を把握したり、量感を伴った理解をしたりする経験をさせること。
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> 文章題の内容を視覚化したり、題意を確認したりすることで理解の促進を図る。 実際の形、重さ、長さなどを体感する機会を学校生活全体の中で意識的に設定する。
理科	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> 自然の事物や現象の変化及びその要因に問題を見出して課題を解決すること。 器具や機材の使用法を工夫し、実験の過程や結果を的確に把握すること。
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> 予想や結果などを整理し記録する機会を意識的に設定する。 実験の手法や課題解決の方法などに継続的に取り組み、学習内容の定着を図る。
生活・総合的な学習の時間	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> 生活体験の差異が大きいことに起因する、学習課題を児童が共通理解したりその内容を把握したりする力の個人差に対応すること。 知識や経験の中から、自ら課題を見出す力、課題の存在に気付く力をつけること。
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> 体験的な活動を充実させるとともに、その体験のもつ意味に気付かせる。 見出した課題を相互に共有し、かつ、児童が主体的に探究活動を行えるような環境を整える。
音楽	昨年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな発想や表現に対する意欲を、個としてだけでなく集団の協調を意識して発揮していくこと。
	今年度の取組	<ul style="list-style-type: none"> 児童が互いに他者意識を持ち、相手の取り組みや演奏・歌唱に関心をもたせること。合奏、合唱の指導を通して協調することの良さに気付かせること。